

皇祖天照大神再来誓願

すめらぎ

皇ニ一重塔 建立趣意

人類の未来は暗い——今、世界中の多くの識者たちが、共通してこう指摘し始めています。

環境問題を初めとする、根本解決不可能と思われる数々の重大問題が、我々人類の行く手に大きく立ちはだかっているからです。

人生の真実を知らないままに、不自然な物欲や金銭欲ばかりを無制限に煽り立てる近代西洋物質文明は、完全に行き詰まってしまったのです。

そんな今日、これまでの常識の全てを根底から覆す、わが国神代の精神文明の奥義が、長い長い眠りから覚めて人知れず蘇ろうとしています。

全体は個の幸せのために、個は全体の幸せのために——こんな自然界の根本原理を政の基本にして古の日本人を教導し、理想の王道國（和の国）の礎を築いたとされるのが、皇祖天照大神です。

そんな天照大神の大いなる和の心を心とする理想の天皇（神性天皇）が、神代以降三千年以上にも亘って固く閉ざされたままだった「天ノ岩戸」を、自ら開いて出現して来そうなのです。

第一二六代德仁天皇が人間的覺醒を果たし、再来の天照大神すなわち救世主に大変身される可能性が極めて高いのです。

本皇三重塔は、そんな天照大神再来を誓願し、併せてその救世大聖業を末永く顕彰するべく建立されたのです。

御神体には、ご成婚時の若き德仁天皇太子の等身大彩色木彫尊像をお祭り申し上げております。

平成三十年十二月吉日

天臣播磨屋助次郎 謹言



東京芸術大学大学院 藪内佐斗司教授作